令和５年度実務経験のある教員等による授業科目シラバス

関西医療学園専門学校
柔道整復学科

分　野	専門基礎分野，専門分野		
教育内容	保険医療福祉と柔道整復の理念，柔道整復実技		
講義名	柔道・柔整柔道実技		
講義方法	講　義・実　技		
単位数	３単位		
時間数	７５時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	１　年
必修･選択区分	必　修		
実務経験	柔道整復師・全日本柔道連盟公認指導者 柔道整復師として接骨院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、臨床的実技を教授する。また全日本柔道連盟公認指導者として各道場での柔道指導の実務経験を活用し、安全対策をとり柔道実技を教授する。		

講義内容･目標	柔道の歴史・基本理念・技・礼法・審判規定についての知識を修得する。・柔道についての理念や創設者、礼法、技名、ルールについて理解することを目標とする。			
	柔道実技の基本・基礎トレーニング・体操・外傷の発生などの知識を修得する。・柔道の講義を通じ先人が築き上げた、柔道整復師としての現在の位置付けを理解し“礼に始まり礼に終わる”という人間形成を目指し社会生活に役立つ柔道整復師の基礎を培うことを目標とする。			
授業計画	柔道		柔整柔道実技	
	1	柔道の歴史	1	体操の方法　柔道の概要（教科書）柔道着の着方取り扱い等（柔道着規定含む）
	2	柔道の理念	2	礼法、基本姿勢
	3	怪我と予防	3	基本トレーニング
	4	礼法	4	基本トレーニング
	5	技術解説（立技）	5	怪我の発生機序
	6	技術解説（立技）	6	怪我の予防と対策
	7	技術解説（寝技）	7	体捌き、崩し、後受け身
	8	ルール（基本）	8	横受け身、前受け身、前回り受け身
			9	前回り受け身（移動、応用）
			10	前回り受け身（移動、応用）
			11	投げ技：足技：出足払い支釣込足
			12	投げ技：足技：大外刈・大内刈
			13	投げ技：腰技：大腰
			14	投げ技：手技：背負投
			15	投げ技：手技：双手背負投・腰技：払腰
			16	投げ技：まとめ、約束乱取り練習
			17	寝技：攻め方、守り方
			18	寝技：連続技：立ち技→寝技
			19	寝技：抑込技
			20	関節技 腕拉十字固、腕絡等
			21	寝技：連続技：抑え込技→抑込技　抑え込技→絞技　抑え込技→関節技
			22	投の形：浮落の基本的動作
			23	投の形：浮落の基本的動作
			24	投の形：浮落の基本的動作
			25	投の形：浮腰の基本的動作
			26	投の形：浮腰の基本的動作
			27	投の形：浮腰の基本的動作
			28	投の形：送足払の基本的動作
			29	投の形：送足払の基本的動作
			30	投の形：送足払の基本的動作

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学，柔道整復実技		
講義名	柔整各論　・柔整実技		
授業方法	講　義・実　技		
単位数	５単位		
時間数	１０５時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	柔道整復師 柔道整復師として接骨院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、臨床的実技を教授する。		

講義内容・目標	上腕部の損傷の知識を修得する。・上腕部の損傷から肘部損傷、前腕部損傷について理解し、その知識を修得することを目標とする。			
	上腕部の損傷の技能を修得する。・上腕部の損傷から肩関節の軟部組織損傷、上腕部遠位部の骨折に対し必要な技能を理解し修得することを目標とする。			
授業計画	柔整各論(Ⅳ)		柔整実技(Ⅳ)	
	1	肩関節脱臼	1	肩関節脱臼
	2	肩関節脱臼	2	肩関節脱臼
	3	肩関節脱臼	3	肩関節脱臼
	4	肩関節の軟部組織損傷	4	肩関節脱臼
	5	肩関節の軟部組織損傷	5	肩関節脱臼
	6	肩関節の軟部組織損傷	6	肩関節脱臼
	7	肩関節の軟部組織損傷	7	肩関節脱臼
	8	肩関節部の注意すべき疾患	8	肩関節脱臼
	9	上腕部の解剖と機能	9	肩関節脱臼
	10	上腕部の解剖と機能	10	肩関節脱臼
	11	上腕骨骨幹部骨折	11	肩関節の軟部組織損傷
	12	上腕骨骨幹部骨折	12	肩関節の軟部組織損傷
	13	上腕部の軟部組織損傷	13	肩関節の軟部組織損傷
	14	上腕部の軟部組織損傷	14	肩関節の軟部組織損傷
	15	上腕部の注意すべき疾患	15	肩関節の軟部組織損傷
	16	肘関節部の解剖と機能	16	肩関節の軟部組織損傷
	17	肘関節部の解剖と機能	17	肩関節の軟部組織損傷
	18	上腕骨遠位部の骨折	18	肩関節の軟部組織損傷
	19	上腕骨遠位部の骨折	19	肩関節の軟部組織損傷
	20	上腕骨遠位部の骨折	20	肩関節の軟部組織損傷
	21	前腕骨近位部の骨折	21	上腕骨遠位部の骨折
	22	前腕骨近位部の骨折	22	上腕骨遠位部の骨折
	23	前腕骨近位部の骨折	23	上腕骨遠位部の骨折
			24	上腕骨遠位部の骨折
			25	上腕骨遠位部の骨折
			26	上腕骨遠位部の骨折
			27	上腕骨遠位部の骨折
			28	上腕骨遠位部の骨折
			29	上腕骨遠位部の骨折
			30	上腕骨遠位部の骨折

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	一般臨床医学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	疾患別の疾病の知識習得をする。・わが国で古くから施術として国民医療に貢献してきた柔道整復学を学ぶものが、臨床医学の中心であり基幹である内科学を学び、その施術にあたる際、実力を一層発揮することを目標とする。	
授業計画	一般臨床医学（内科）	
	1	呼吸器疾患
	2	循環器疾患
	3	消化器疾患
	4	肝・胆・膵疾患
	5	代謝・栄養疾患
	6	内分泌疾患
	7	血液・造血器疾患
	8	腎・尿路疾患
	9	神経疾患
	10	感染症・性病
	11	リウマチ性疾患
	12	アレルギー性疾患
	13	免疫不全
	14	環境要因による疾患
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	一般臨床医学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	診察・検査法の医学知識習得を目的とする。・西洋医学は、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。病理学的背景に裏付けられた疾患分類は疾患の把握が容易であり理解しやすい。柔道整復術を学ぶ者が西洋医学の考え方を学び、その長所短所を十分理解して施術にあたるならば、その実力を一層発揮し得る。疾患の科学的観察力を養い、また健常及び疾病の病態を理解することを目標とする。	
授業計画	一般臨床医学（診察）	
	1	診察の意義
	2	診察の進め方
	3	問　診
	4	視　診
	5	打　診
	6	聴　診
	7	触　診
	8	生命徴候
	9	知覚検査
	10	反射検査
	11	代表的な臨床症状
	12	代表的な臨床症状
	13	検査法（生命徴候の測定）
	14	検査法（生理検査）
	15	検査法（検体検査）

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	整形外科学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	３　年
必修･選択区分	必　修		
実務経験	医　師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し､具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容･目標	運動器の疾患・障害の基礎・診察・検査・治療・関節損傷・スポーツ整形・整形外科疾患別各論の知識を修得する。・整形外科学は骨折・外傷だけでなく、全身の運動器疾患(先天性も含む)を扱う学問であり、その治療にあたっては診断学が重要となります。講義では総論として診断、治療（保存的・観血的）を教科書だけでなく、Ｘ線(術前･術後)、MRI・CT 及びビデオを見ながら DISCUSSION し、理解を深めていきます。骨折、外傷などは柔整理論で詳しく取り扱っているので、各論では骨系統疾患、感染症疾患、骨端症、神経・筋系統疾患及び骨･軟部腫瘍などの整形外科特有の疾患の病態について理解することを目標とする。	
授業計画	1	運動器の基礎知識
	2	整形外科診察法
	3	整形外科検査法
	4	整形外科的治療法
	5	骨・関節損傷総論
	6	スポーツ整形外科総論
	7	リハビリテーション総論
	8	疾患別各論：感染性疾患
	9	疾患別各論：骨腫瘍
	10	疾患別各論：軟部腫瘍
	11	疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患
	12	疾患別各論：全身性の骨・軟部疾患
	13	疾患別各論：骨端症
	14	疾患別各論：四肢循環障害
	15	疾患別各論：神経・筋疾患

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	外科学概論		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	６０時間		
学　科	柔道整復学科	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	医　師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	外科学について総論・各論の知識を修得する。・外科学の範囲は広く、すべてを網羅することは不可能であるが、そのエッセンスとともに、日常診療にて、遭遇する可能性のある代表的疾患について学ぶ。また医療人として、必要である救命処置、患者診察において柔整師が初診する可能性がある疾患（骨折、狭心症、胃腸疾患の放散痛）について理解することを目標とする。	
授業計画	1	総論：損傷
	2	総論：創傷
	3	総論：熱傷
	4	総論：炎症
	5	総論：外科感染症
	6	総論：腫瘍
	7	総論：ショック
	8	総論：輸血
	9	総論：輸液
	10	総論：消毒
	11	総論：滅菌
	12	総論：手術
	13	総論：麻酔
	14	総論：移植
	15	総論：免疫
	16	総論：出血
	17	総論：止血
	18	総論：心肺蘇生法
	19	各論：脳神経外科疾患①
	20	各論：脳神経外科疾患②
	21	各論：脳神経外科疾患③
	22	各論：甲状腺疾患
	23	各論：頸部疾患
	24	各論：胸壁疾患
	25	各論：呼吸器疾患
	26	各論：心臓疾患
	27	各論：脈管疾患
	28	各論：乳腺疾患
	29	各論：腹部外科疾患
	30	各論：腹部外科疾患

成績評価	学科試験
評価基準	６０点以上合格（１００点満点）